

# 令和3年度アスパラガス防除暦

JA佐渡

回数	散布時期	対象病害虫	薬剤名	散布量	使用方法(希釈倍率)	100Lあたり薬量	使用時期	使用回数	農薬の特徴および注意点
除草	3月 萌芽前	一年生雑草	ゴーゴーサン乳剤	70~ 150L/10a	使用量 200~ 400ml/10a		萌芽前 (雑草発生前)	1回以内	●土壌中の移行性が小さく安定した処理層を形成するので作物への安全性が高い。 ●激しい降雨が予想される時には使用を避ける。
1	4月下旬	茎枯病:斑点病	ロブラール水和剤	100~300L/10a	2,000 倍	50 g	収穫前日まで	5回以内	●予防効果が強く、残効は長い。アルカリ性農薬との混用は避ける。
2	立茎開始 (5月10日目安)	茎枯病:斑点病:褐斑病:疫病	ダコニール1000	100~400L/10a	1,000 倍	100 ml	収穫前日まで	4回以内	●植物体内への浸透移行性はない。予防効果的で残効性がある。
3	5月15日 (1回目散布から5日後)	茎枯病:斑点病:褐斑病	アフエツフロアブル	100~300L/10a	2,000 倍	50 ml	収穫前日まで	4回以内	●優れた予防効果を有する。
4	5月20日	茎枯病:斑点病:褐斑病	コサイド3000	100~300L/10a	2,000 倍	50 g	-	-	●殺菌活性を持つ銅イオンの溶出度が優れているため、安定した防除効果を示す。
5	5月25日	茎枯病:株腐病	ベンレート水和剤	100~300L/10a	2,000 倍	50 g	収穫前日まで	4回以内	●浸透性を有する殺菌剤である。予防効果と治療効果を兼備した薬剤である。
6	5月30日	茎枯病:斑点病:褐斑病:疫病	ダコニール1000	100~400L/10a	1,000 倍	100 ml	収穫前日まで	4回以内	●植物体内への浸透移行性はない。予防効果的で残効性がある。
7	6月5日	茎枯病:斑点病:褐斑病	アミスター20フロアブル	100~300L/10a	2,000 倍	50 ml	収穫前日まで	4回以内	●雨に強く浸透移行性による優れた予防効果がある。 ●浸透性を高める効果のある展着剤を混用すると薬害を生じる場合がある。
		アザミウマ類:ハスモンヨトウ オタハコガ:ジュウホシクビナガハムシ	ディアナSC	100~500L/10a	2,500 倍	40 ml	収穫前日まで	2回以内	●速やかな食害抑制効果を発揮するので、被害の拡大(進展)を抑制する。
8	6月10日	茎枯病:斑点病:褐斑病	コサイド3000	100~300L/10a	2,000 倍	50 g	-	-	●殺菌活性を持つ銅イオンの溶出度が優れているため、安定した防除効果を示す。
9	6月15日	茎枯病:斑点病	ロブラール水和剤	100~300L/10a	2,000 倍	50 g	収穫前日まで	5回以内	●予防効果が強く、残効は長い。アルカリ性農薬との混用は避ける。
10	6月20日	茎枯病:斑点病:褐斑病	アフエツフロアブル	100~300L/10a	2,000 倍	50 ml	収穫前日まで	4回以内	●優れた予防効果を有する。
11	6月25日	茎枯病:斑点病:褐斑病:疫病	ダコニール1000	100~400L/10a	1,000 倍	100 ml	収穫前日まで	4回以内	●植物体内への浸透移行性はない。予防効果的で残効性がある。
		ジュウホシクビナガハムシ:アブラムシ類:アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤	100~300L/10a	4,000 倍	25 g	収穫前日まで	2回以内	●速効性と強い浸透移行性を併せもつ薬剤である。
12	7月上旬	茎枯病:株腐病	ベンレート水和剤	100~300L/10a	2,000 倍	50 g	収穫前日まで	4回以内	●浸透性を有する殺菌剤である。予防効果と治療効果を兼備した薬剤である。
13	7月中旬	茎枯病:斑点病	ロブラール水和剤	100~300L/10a	2,000 倍	50 g	収穫前日まで	5回以内	●予防効果が強く、残効は長い。アルカリ性農薬との混用は避ける。
34	8月上旬	茎枯病:斑点病:褐斑病:疫病	ダコニール1000	100~400L/10a	1,000 倍	100 ml	収穫前日まで	4回以内	●植物体内への浸透移行性はない。予防効果的で残効性がある。
15	8月中旬	茎枯病:斑点病:褐斑病	アフエツフロアブル	100~300L/10a	2,000 倍	50 ml	収穫前日まで	4回以内	●優れた予防効果を有する。
16	8月下旬	茎枯病:斑点病	ロブラール水和剤	100~300L/10a	2,000 倍	50 g	収穫前日まで	5回以内	●予防効果が強く、残効は長い。アルカリ性農薬との混用は避ける。
17	9月上旬	茎枯病:斑点病:褐斑病	ファンタジスタ顆粒水和剤	100~300L/10a	3,000 倍	33 g	収穫前日まで	3回以内	●予防効果に加えて病斑進展阻止効果を有します。 ●葉の内部への浸透性、茎部から上位葉への浸透移行性を有します。
18	9月中旬	茎枯病:株腐病	ベンレート水和剤	100~300L/10a	2,000 倍	50 g	収穫前日まで	4回以内	●浸透性を有する殺菌剤である。予防効果と治療効果を兼備した薬剤である。
19	9月下旬	茎枯病:斑点病:褐斑病	コサイド3000	100~300L/10a	2,000 倍	50 g	-	-	●殺菌活性を持つ銅イオンの溶出度が優れているため、安定した防除効果を示す。
20	10月上旬	茎枯病:斑点病:褐斑病	コサイド3000	100~300L/10a	2,000 倍	50 g	-	-	●殺菌活性を持つ銅イオンの溶出度が優れているため、安定した防除効果を示す。
21	10月中旬	茎枯病:斑点病:褐斑病	ベルコート水和剤	100~500L/10a	1,000 倍	100 g	収穫7日前まで	5回以内	●優れた予防効果を有する。
22	収穫後 11月上旬	茎枯病	リゾレックス水和剤	100~300L/10a	500 倍	200 g	収穫後~茎葉刈取期 但し収穫14日前	3回以内	●優れた予防効果を有する。収穫後に散布する。
除草	茎葉刈取後 11月下旬	一年生雑草	ラウンドアップマックスロード	50~100L/10a	使用量 300~ 500ml/10a		収穫前日まで(雑草生育期 畦間処理)	2回以内	●さまざまな環境下において高い除草効果を生揮し、作物の根まで枯らす効果がある。 ●茎葉刈取後に使用し、アスパラガスにかからないよう十分注意する。

散布時期	対象病害虫	薬剤名	散布量	使用方法(希釈倍率)	使用時期	使用回数	農薬の特徴および注意点	
臨時防除	ジュウホシクビナガハムシ:ヨウムシ:カメムシ:アブラムシ	アデオン乳剤	100~300L/10a	2,000 倍	50 ml	収穫前日まで	3回以内	●速効性また優れた残効性を発揮する
臨時防除	ハスモンヨトウ:オタハコガ:ヨウムシ:ネギアザミウマ	プレオフロアブル	100~300L/10a	1,000 倍	100 ml	収穫前日まで	2回以内	●散布後の降雨の影響が少なく残効性に優れる。 ●チョウ目害虫に対しては速効的に作用
臨時防除	ハスモンヨトウ:ヨウムシ:オタハコガ	アフアーム乳剤	100~300L/10a	2,000 倍	50 ml	収穫前日まで	2回以内	●チョウ目害虫、アザミウマ類に卓効を示す、新規の作用性を持つマクロライド系の殺虫剤である。
臨時防除	アブラムシ:ジュウホシクビナガハムシ ツマグロアオカスミカメ:ネギアザミウマ	ハチハチフロアブル	100~800L/10a	1,000 倍	100 ml	収穫前日まで	2回以内	●幅広い害虫種に対して効果を有する。
臨時防除	ナメクジ類:カタツムリ類	スラゴ	1~5g/m <sup>2</sup>	加害を受けた場所又は株元に配置	発生時	-	●薬剤を摂食したナメクジ・カタツムリは速やかに作物への加害を停止し、死に至る。 ●雨、湿気に強い製剤で、湿った場所でも効果を発揮する。	
臨時防除	一年生雑草	ロロックス	100~150L/10a	使用量 150~ 200g/10a	萌芽始期但し収穫前日(雑草発生前~発生始期)	1回以内	●主に広葉雑草に特に効果がある。 ●萌芽始期に使用出来るが、擬葉にかかると薬害があるので注意する。	
臨時防除	一年生雑草	ザクサ液剤	100~150L/10a	使用量 300~ 500ml/10a	収穫前日まで(雑草生育期 萌芽前又は畦間処理)	2回以内	●光条件、温度条件、降雨条件などに関わらず、さまざまな環境下において高い除草効果を生揮する。	

※ベルコート水和剤は、使用時期が収穫7日前までのため注意する。

農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJAまたは関係機関にご相談してください。

周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。(他の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう。)

農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守しましょう!

散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。

防除は生育や病害虫の発生予察に注意して適期に実施しましょう。

圃地環境(防風樹の整備・草刈りの徹底)をよくしましょう。